



PREX NOW

No. **123**
April
2003

財団法人 太平洋人材交流センター
Pacific Resource Exchange Center

contents

- page 1 ニュース&レポート 1
PREX、4月に事務所を移転
- page 2 ニュース&レポート 2
中央アジア・コーカサスの
地域紹介シンポジウムを開催
- page 3 講師の声
日本の中小企業支援に感激
中小企業診断士 関浦照隆
- page 4 ニュース&レポート 3
モンゴルの中小企業発展を目指して
- page 4 企業訪問同行記
金型設計・製造の株式会社を訪問
- page 5 PREX役員、常任幹事のひとこと
新しい競争と協力の場を
PREX理事 川上哲郎
- page 6 PREXだより
事務局ニュース、人の動き
4月実施の研修 etc.



ニュース&レポート ①

PREX、 4月に事務所を移転

News & Report

半年がかりで進めてきたPREXの事務所移転計画もいよいよ秒読みに入り、このPREX NOWをお届けする4月には、pia NPOの「新事務所」で気分一新、新年度の事業に取り組んでいる予定である。PREXの創立以来13年間、馴れ親しんできた中之島センタービルはPREXの設立母体とも云うべき「関西経済同友会」や「関西経済連合会」他の経済団体が入居し、正に関西財界活動のメッカの様なロケーションであっただけに新事務所への移転は後ろ髪を引かれる思いであるが、移転による大きなメリットへの期待も大きい。21世紀に向けて大阪市が国際交流の一大拠点作りを目指しただけに、このpia NPOには国際的な活動を進める多くのNPO団体が入居し、多様な活動を続けている。又、NPOの事務所以外に国際交流、国際協力などに関する様々な情報を提供する「情報センター」も設置されており、日本のODAや民間レベルの国際交流・協力の資料・情報が提供されている等、正に国際的NPO活動の集積拠点とも云うべきビルである。更にもう一つの大きなメリットは事務所賃借料の大幅削減にある。大阪市が旧港湾局庁舎の有効利用を模索する中で国際関係のNPO支援と云う大英断を下した結果、市場価格を大幅に下回る賃借料が実現した。一般に財政的基盤の脆弱なNPOにとって大変有り難い措置である。



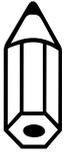
事務所スペースのみならず、国際会議にも対応できる同時通訳の設備も備えた大会議場や小規模なセミナー・ミーティングに利用できるものまで各種の会議室が揃っているのも心強く、恐らく色々な交流活動に活用されるに違いない。心配された交通の便も、大阪環状線と地下鉄でウォーター・フロントと云う心理的な距離感を十分解決している。

事務所スペースのみならず、国際会議にも対応できる同時通訳の設備も備えた大会議場や小規模なセミナー・ミーティングに利用できるものまで各種の会議室が揃っているのも心強く、恐らく色々な交流活動に活用されるに違いない。心配された交通の便も、大阪環状線と地下鉄でウォーター・フロントと云う心理的な距離感を十分解決している。

PREXでは、事務所賃借料の大幅削減により財政基盤の安定化を図ると共に、他のNPO団体との連携強化により更にPREX研修事業の幅を広げ奥行きを深める絶好のチャンスと期待している。いずれpia NPOが海遊館、天保山ハーバービレッジやサントリーミュージアム等と共に大阪の一大国際交流拠点になる日を目指して活動を進めたいと思う。

平成15年度の新事業計画では研修事業の数も前年度に比べ増加の傾向にあり、3分の1弱は新規案件である。これは、次々と新しい研修のニーズが出現し、古いものとのスクラップ・アンド・ビルドを迫られた結果である。PREXでは、よりの確な人材育成ニーズを把握し、企画・提案して行く為に海外へのニーズ調査、フォローアップ活動を徹底し、新しい事務所環境の中で新規案件へ意欲的に挑戦する所存である。

専務理事 三田 昌孝



中央アジア・コーカサスの地域紹介シンポジウムを開催

[中央アジア市場経済理解のためのマーケティングセミナー]

2月13日、国際協力事業団(JICA)とPREXの共同主催で「公開セミナー ~ 中央アジア・コーカサス 地域紹介シンポジウム ~」を、法務省法務総合研究所国際会議室にて開催。パネリストは「中央アジア市場経済理解のためのマーケティングセミナー」参加者。

公開セミナーにご協力いただいた団体(五十音順)
 ウズベキスタン共和国大使館、大阪国際経済振興センター-WTCO、大阪商工会議所、海南商工会議所、関西経済連合会、京都商工会議所、キルギス共和国名誉総領事館、神戸商工会議所、吹田商工会議所、日本グルジア文化協会、東大阪商工会議所、法務省法務総合研究所、八尾商工会議所

PREXがJICAから受託した「中央アジア市場経済理解のためのマーケティングセミナー」には、旧ソ連の中央アジア、コーカサス地域より12名が参加していたが、日本では馴染みの薄い国ばかりであり、今回の訪日を契機に関西の皆さん方に同地域への理解を深めてもらい、お互いにとって有益な情報の提供ができる場として研修の最終日にこの公開セミナーを実施することとなった。

司会兼コメンテーターには研修カリキュラムを中心となってリードしていただいた山脇ビジネス・コンサルティングの山脇康彦代表を迎え、参加6カ国(カザフスタン、キルギス、タジキスタン、ウズベキスタン、アゼルバイジャン、グルジア)から代表各1名ずつが各国の概況やポテンシャルの高い産業分野の現状及び将来性などについて約20分ずつのプレゼンテーションを行うと同時に、会場の聴講者からの質疑に答える

という内容で進めた。

各国ともユーラシア大陸のほぼ真中に位置し周辺には中国、インド、ヨーロッパそしてロシアなどの巨大な市場を持っている点、地下資源や農産品に恵まれている点、そしてシルクロードや山岳地帯といった豊かな観光資源に囲まれている点などをアピールし、今後の将来性は未知数ではあるが十分に期待できることを強調し、また、日本でもより多くの理解を得てそれが経済発展につながることを同様に望んでいた。

当日は、ご後援いただいた商工会議所他を通じた案内などにより25名の方々にご参加頂き、研修員のプレゼンテーションに対して地下資源の埋蔵量や輸送方法、安全保障の状況などについて質問が出された。

この研修自体は、参加各国に共通の基幹産業のひとつである繊維産業を通じて

各国・当地域の産業活性化をいかに進めることができるか、という観点で実施されたが、中央アジア・コーカサス地域を広く知っていただくという目的から、公開セミナーでは研修の成果を披露することはできなかった。

この点については、聴講された方からも「残念だ」という声を頂いた。

また、折角の機会なので一般的な情報の提供にとどまらない内容を希望される声も多く頂戴している。

一方、プレゼンテーションを行った研修員自身からは、関西の皆さん方に自国を紹介する貴重な場でもあり、今後も是非継続してほしいという支持ももらった。

次の開催時には反省点も含めこれらのご意見を反映させて、より有益な情報提供の場となるべく、取り組んでいきたいと考えている。

国際交流部 課長代理 森光 恵美子



地域紹介シンポジウムの様子



ソニーミュージアムにて、アイボに一齐にビデオカメラを向ける研修員



オークラ工業訪問時の様子



メーカーズニット「五つの泉」五泉ニットの直販店が東京広尾にあり訪問

「中央アジア市場経済理解のためのマーケティングセミナー」

実施日時 1/20~2/14
 研修参加者 中央アジア、コーカサス6カ国12名
 (カザフスタン:1名、キルギス:6名、
 タジキスタン:2名、ウズベキスタン:1名、
 アゼルバイジャン:1名、グルジア:1名)
 各国の産業振興に携わる行政官及び
 繊維産業関連企業幹部
 関係機関 国際協力事業団(JICA)
 大阪国際センター
 内 容 マーケティング概論、繊維産業における
 マーケティングの現状、繊維産業に
 における活性化の事例、アジア各国の
 発展事例の移転可能性など

お世話になった企業・団体他(訪問順・敬称略)

山脇ビジネス・コンサルティング 山脇康彦代表、オークラ工業、オークラ輸送機、宇都宮大学 清水学教授、神戸都市整備公社神戸都市国際ビジネスセンター事業室、阪急交通社国際輸送事業本部、東レ、東洋紡、深喜毛織、イトイテキスタイル、ソニー、オンワード樫山、丸紅マネジストリソース、メーカーズニット「五つの泉」、五泉ニット工業協同組合、坪川、新潟経営大学 ツェリッシェフ・イワン教授



日本の中小企業支援に感激

[ボスニア・ヘルツェゴビナ中小企業振興セミナー]



関浦 照隆
中小企業診断士



最終レポート発表会で
中小企業施策についての
追加説明をする関浦講師。

中小企業支援のための インフラ基盤整備が必要

ボスニア・ヘルツェゴビナは、「ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦」と「スルプスカ共和国」という独自性の高い2つの地方政体によって構成され、これらの地方政体の上に、統一国家ボスニア・ヘルツェゴビナとしての中央政府機構があります。そのため、それぞれの制度は、整合性が無く、日本の「中小企業基本法」のような、基本となる法制や施策の再整備が必要であるとの意見がジョブレポートで出されていました。帰国したら、政府機関の関係者への働きかけをするという感想もあり、研修後の成果が期待されます。

中小企業支援を具体化する ための施策に役立つ

ボスニア・ヘルツェゴビナの主要な産業は、木材加工（家具製造など）食品・飲料（ワイン、チーズ、ミネラルウォーター、たばこ、ビール）電力（水力発電によりアルミニウム工業）鉱業（ボーキサイト、鉄鉱石、石炭）観光（豊かな自然と歴史、冬季五輪の施設を利用したスキー場）繊維、部品製造、陸上運輸、映画製作なども盛んです。これらの産業の復興には、政府や地方機関による中小企業支援が必要です。創業・ベンチャー支援等の「日本の中小企業支援」の実態を視察・研修して、「技術・経営の革新」の重要性を認識されました。そのために、大学や公的研究機関との連携を深めることが挙げられますが、今回のセミナーでは、広島市のサイエンスパークや中小企業支援センターの見学を通じて、市場での競争で負けない



酒類総合研究所で
お酒の原料の米をチェック。

ようにするための、産官学の提携のモデルが参考になったようです。もちろん、戦後の日本が、廃墟から復興したことについても、得られるものが多かったとの意見がありました。

海外からの投資を活用するため 証券市場を整備する

ボスニア・ヘルツェゴビナの復興には、外国からの投資を活用することが重要ですが、1994年から2001年まで約5億ドルが、クワート（製鉄所など）、クロアチア（銀行など）、ドイツ（セメント工業など）、オランダ（コココーラ）などから投資されています。首都サラエボとスルプスカ（セルビア人）共和国の中心都市バニャルカには、株式市場も開設されたばかりです。今回の参加者は、証券会社の機能についても強い関心があり、また信用金庫を訪問しましたが、銀行の仕事についても参考になったようです。

中小企業支援には 人材開発が重要

ボスニア・ヘルツェゴビナの2001年の輸



富士精密で圧力を加えてボルトやナットの
締め具合を検査する機械の説明を受ける。

出額は約11億ドル、主な輸出品は工業製品や原材料で、最大の輸出相手国はイタリア、次いでユーゴスラビア、ドイツ、スイスの順です。輸入額は約30億ドル、主な輸入品は機械類や食品で、主な輸入相手国はクロアチア、イタリア、スロベニア、ドイツです。今後は、国内産業を活性化しつつ、海外への輸出品目を拡充することが、求められています。これらの事業を支えるのは、人材です。参加者に共通していたのは、これらの人材を開発する重要性についての認識でした。

「ボスニア・ヘルツェゴビナ中小企業振興」

実施日時	1/20～2/7
研修参加者	ボスニア・ヘルツェゴヴィナの中小企業振興に携わる政府職員他7名
関係機関	国際協力事業団（JICA） 大阪国際センター
内容	中小企業振興

お世話になった企業・団体他（訪問順・敬称略）

読売新聞大阪本社編集局経済部 戸田記者、リベックス、川並鉄工、セラテックテクノロジー、富士精密、中京大学経営学部 寺岡学部長・教授、ひろしま産業振興機構、広島中央サイエンスパーク、福山商工会議所、中小企業金融公庫堺支店 米田（融資担当）副長、大阪産業振興機構フォレックス部、大阪信用金庫、立命館大学経済学部 田中教授



モンゴルの中小企業発展を目指して

[モンゴル中小企業経営研修]

昨年度に引き続きモンゴルの経営者を対象に、講義・演習ならびに企業訪問を通じ、経営管理ノウハウの習得と向上を目的として「モンゴル中小企業経営研修」を実施した。労務管理や新規事業開拓、ビジネスプラン作成にあたっては、クリエイション内海代表の一貫した指導を頂いた。また資金調達をテーマに大和銀総合研究所高木主任研究員に講義頂くとともに、企業の実例紹介として大阪富士工業を訪問。最後のビジネスプラン発表会では、モンゴルで中小企業を実態調査を行ったパス研究所の西澤代表、モンゴルと取引関係にある大阪カシミアなどにコメンテーターとしてご参加頂

いた。その他佐川急便など多くの企業ならびに専門家に協力頂くことができた。

モンゴル中小企業経営研修

実施日時 11/5～12/6
 研修参加者 モンゴル、民間企業経営者・経営幹部 8名
 関係機関 国際協力事業団(JICA)
 大阪国際センター
 内 容 経営管理(労務管理、資金調達他)

お世話になった企業・団体他(訪問順・敬称略)

住友電気工業 川上相談役、住友電気工業大阪製作所、関西大学社会学部 大西教授、シーエスピー、神戸大学経済経営研究所 星野助教授、サンコーインダストリー、尼崎信用金庫、ミツテック、大発、淡路島農場、モンゴルの里、エム・シーシー食品、オーテック、大阪カシミア



2グループに分かれてビジネスプランを作成。この後代表が発表し、互いに厳しく講評&コンサルティング。



物流への取り組みで表彰を受けたサンコーインダストリー東大阪物流センターを訪問。よく整頓され、人の動きに配慮した倉庫に感心する研修員たち。



尼崎信用金庫を訪問し、中小企業の資金調達について、融資判断のポイントなど説明を受ける。田村常務理事を囲んで。



レトルト食品等製造のエム・シーシー食品を訪問し、工場見学。研修員の中に食品会社の経営者もあり、品質管理の仕組みなどについて非常に熱心に質問。



企業訪問同行記

金型設計・製造の(株)オーテックを訪問

今回は、数ある訪問先の中で、研修終盤に日本の中小企業経営最新事情を紹介する目的で(株)オーテックを訪問した。大阪府八尾市に本社を置く金型設計・製造の中小企業ながら、インターネットを活用した情報発信・受発注サイトを構築、大手メーカーも一目置く新たなビジネスモデルを確立した企業である。

訪問では、呉宮社長自ら自社の事業の背景と成功の秘訣についてお話し頂くとともに、今後のモンゴル経済発展のための提言を頂くことができた。モンゴルが今後工業化を目指すにあたっての2つの可能性、それは、「自社でマーケットを創造すること」と「研究開発力のある若者を育成すること」。2つ目の戦略により、外国大手企業開発部

門の誘致やブランドメーカーへの成長が可能となるといふ。

モンゴルの経営者8名は熱心に聞き入っていたが、中でも、モンゴルで実力のある経営者として有名なムフトゥル氏などは、非常に刺激を受けていた様子である。

一企業の経営者としてのみならず、大阪市ものづくり再生会議委員にも就任し、大阪・関西の産業活性化にも積極的に働きかけている呉宮氏ならではの、モンゴルへの貴重なメッセージであった。今回研修に参加した8名が、呉宮社長はじめ数多くの講師・訪問先から頂いたアドバイスを糧に、自らの企業の経営改善にとどまらず、モンゴルの企業を力強く牽引していくことを期待している。

国際交流部 若菜 愛



オーテック 呉宮社長に事業の背景と成功の秘訣についてお話をいただいた。

(株)オーテック

1995年の設立以来、製造業(樹脂金型製造加工、樹脂成型品製造加工、樹脂金型設計)として一貫した提案型エンジニアリングを実践。そのなかで築かれた“ものづくり”の製造基盤とノウハウを土台にし、従来からの生産・営業体制と、全く新しいオンラインサービス(インターネットサイトの運営、電子市場取引の実現)を融合させ、これまでにない新時代の工業界トレーディングを展開。現在、最大約48,000社の世界中の製造事業所に対して資材調達情報の受発信をリアルタイムに行える体制を確立している。



新しい競争と協力の場を

PREX理事 川上 哲郎
住友電気工業株式会社 相談役

「光陰矢の如し」1990年にPREXが設立されて、はや13年になる。ちょうど世界史が歴史的な大転換を遂げつつあった最中に、当センターは関西経済人の発意と努力によって誕生した。

前年、北京における天安門事件のあとベルリンの壁が落ち、東欧の社会主義体制が崩れ、アジア諸国が一斉に市場経済を指向し、人材の育成を希求しているまさにそのときであった。

振り返ってみると、80年代、心ある関西経済人は1970年の万国博以降の地域経済の落ち込みを打破すべく、21世紀を視野に入れたさまざまな活性化戦略を立案、各社の協力を得て実行に移していた。関西学研都市(けいはんな)をはじめとする各種プロジェクトに加えて、ソフト面ではP.E.C.C(太平洋経済協力機構)の大阪大会の成功を承けて、P.E.O.日本委員会の設置からPREXの設立につながった。当初危惧された財団基金も、募金をしてみると予想を遙かに超えた30億円超の浄財が集まり、センターの順調な発足が可能となった。今思えば、あの関西経済人の地域発展への思い入れと情熱は何処に消え去ったのであろうか。

冷戦終結後、各国の産業政策は大きく変化した。簡単に言えば、産業振興と雇用増進のため、自国への資本投資は歓迎であり、資本流入を原則として自由に認める方針への変更である。米国クリントン政権のR.B.ライシェ労働長官(ハーバード大学教授)から、中国の鄧小平主席に至るまで、海外からの資本投資の促進策を採用した。

一方、わが国では1985年のプラザ合意後、急

速な円為替上昇を背景にして製造業各社は世界経済のなかでの競争力強化を求めて、当初は東南アジア各地に生産拠点を展開し、経営のスケール・アップと生産性向上を図った。明治以降、日本が目指した工業化、特に第二次大戦後確立した日本型経営と管理技術を、途上国の近代化政策とタイ・アップしつつ移植したのである。

この好個な例として、PREX発足の翌年、私も講師として参加したマレーシアの研修会を挙げる事ができる。マハティール首相は、ルック・イーストのスローガンを掲げ、KL郊外に壮大なシャーラム工業団地を造成し、多くの日本企業を誘致した。

研修会は成功裡に終了したが、全く思いがけず、その夜私はシンガポール政府のEDB(経済発展局)幹部の訪問を受けた。用件は、同国沖合のインドネシア領バタム島への日本企業誘致への協力と幹部社員のためのゴルフ場建設への参画依頼であり、アセアン諸国は、今こそ日本各社の積極的協力を必要としていると熱心に説くのであった。

あれから12年の歳月が流れ、アセアンに引き続き中国が力強く台頭し、日本の関心は専らこの巨大市場に注がれているように見える。しかし、いま日本の政策当局と経済人に問われるのは、アジア各国との競争と協力のスタンスをいかにとるか。そのための新しい戦略構築と人材育成のあり方である。

事務局
ニュース

PREXトップ会を開催

2月19日10:30～11:30、PREX会議室において井上会長、柴田理事長、藤副理事長代理武田支配人、三田専務理事他が出席し、PREX中期ビジョンに関する論議及びその他報告を行った。

PREX常任幹事会を開催

3月3日10:00～11:30、関西経済連合会 第2会議室においてサントリー株式会社相談役 津田和明氏を座長に常任幹事会を開催。2002年度事業の進捗状況と2003年度事業計画(案)の報告、PREX中期ビジョンについての論議を行った。

**PREX三田専務理事、クレオ大阪西で
人材育成について公開トーク**

3月15日10:00～12:00、PREX三田専務理事がクレオ大阪西(大阪市)で「人材育成という援助～ODA(政府開発援助)の現場から～」と題して公開トークを行った。公開トークでは日本のODAの現状や今後の課題を中心に、途上国人材育成支援機関としてPREXの事業活動を紹介した。

4月実施の研修

**ウズベキスタン日本センター、カザフスタン日本センター
＜ビジネスコース受入研修＞を実施**

期間 3/18～4/8
参加者 当該センター実施のビジネスコース現地受講者など7名
内容 経営管理

「上海市人事・労務セミナー」を実施

期間 3/31～4/10 5/11～5/21
参加者 上海市の公務員および企業の幹部21名
内容 経営管理

**ベトナム日本センター、ラオス日本センター
＜ビジネスコース受入研修＞を実施**

期間 4/1～4/16
参加者 当該センター実施のビジネスコース現地受講者など14名
内容 経営管理

【インターンシップの受入れ】

インターンシップ生：立命館大学 国際関係学部
古賀優衣子さん、古谷綾さん
期間：2003年2月5日～3月31日
実習内容：途上国人材育成支援の具体的活動をPREXでの実習を通して体験する。

期間中に実施する受入研修のいくつかに同行し、受入研修の内容、方法の具体例、研修コーディネータの役割と実務、人的交流の実態等について見聞を広める。3月後半にスタートする受入研修の企画、準備段階の実務を体験し、ニーズに対応した研修目標、内容の設定、より研修効果をおげるためのカリキュラム編成の重要性等についての理解を深める。

人の動き

退任



津曲 一徳

事務局次長・国際交流部部长
2003.3.31付

2000年3月17日、PREXの朝会で赴任の挨拶をした当時のメンバーで今も活躍中なのは9名。残り9名はその後の

新メンバー、僅か3か年と云うが半数のメンバーが入り替わる事でも判る様にこの間のPREXの動きはダイナミックである。新規分野を含め受託研修も増え又テーマは同じでも局員の考え方、把まえ方が大きく変化、進歩しており研修内容が進化してきている。新たな時代の要請に応じた人材育成と云うことでこの間の局員自身の成長も目を眩るものがある。こうした職場で過ごせた3年間、特に企業生活の最後を社会貢献事業に従事出来たことは無上の喜びである。

非常に数多くの方々にご指導、ご協力を頂き無事任期を満了する事が出来ました。この場を借りて心より御礼申し上げます。PREXは次なる飛躍に向け、新たな10年に向けてのヴィジョン作りに取り組んでいます。PREXを支えて頂いている皆様方どうか今後とも絶大なご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。お別れの言葉とさせていただきます。

退任



瀬尾 寿樹

国際交流部 部長代理
2003.3.31付
西日本電信電話株式会社へ帰任

2000年4月にPREXに來ましてから3年、まさに「光陰矢の如し」の感がしています。私

にとっては、海外の方々の人材育成という初めての分野でしたが、研修事業に携わる諸関係機関、企業・大学、講師の皆様、またPREXの皆様には大変御世話になり無事任期を迎えることが出来ました。この間、皆様をはじめ海外の方々との面識を得られた事は私にとって最大の財産と思っています。いまPREXが次の新たな展開を目指すに当り、PREXのメンバーが自分の思いを熱く語りそれがビジョンの一つとなって具体的に実現し、さらに大きく飛躍されることを期待しています。また関係の皆様方にはPREXへの暖かいご支援・ご指導を賜りますようお願い申し上げます。最後になりましたが、この3年間、公私含め大変御世話になりました事、改めてお礼を申し上げますとともに、皆様方の更なるご活躍とご発展を心から願ひまして、お別れの言葉とさせていただきます。

退任



山下 喜史

国際交流部 部長代理
2003.3.31付
サントリー株式会社へ帰任

昨年4月に赴任してから1年という僅かな期間でしたので、どのくらいお役に立つことができたのかと誠に心苦しい限りです。

昨春の赴任までは、およそ外国の方と親しく話す機会のなかった私にとって、PREXでの日々は毎日が新鮮で、これまでとはまったく異なる、素晴らしい国際交流の一端を担わせていただきました。言葉は十分に通じなくても、研修員の皆さんとともに行動することで自ずと意が通じ合うことを実感できたのがなによりの収穫でした。いずれ、ぜひ機会を見つけて、研修員の皆さんのお国を訪ねてみたいと思っています。

こうした豊かな人生経験ができたのもひとえに、PREXメンバーの皆さん、研修にご協力いただいた先生方、各社・各団体の皆様方のお蔭と心より感謝致す次第です。

末筆ながら、皆様のますますのご発展とご活躍をお祈り致します。ありがとうございました。